

宇陀市総合計画審議会

日時：令和6年10月31日(木) 午後2時00分～

場所：宇陀市役所4階 大会議室

1. 開会

市長あいさつ

金剛市長：

皆様、こんにちは。第2次宇陀市総合計画は全体の期間が12年で、その中で前期・中期・後期と3つに分けており、今、中期の4年間の計画を進め、今年は3年目である。再来年からはいよいよ最終の4年間である。ちょうど中間地点くらいに来ており、これからいろいろな施策を実行して、成果を上げていかなければならないと考えている。

財政改革、将来に向けた新しい投資など、様々な施策を宇陀市として取り組んでいるが、なかなかすぐには成果が現れてこない。いろんな所に情報発信をするなど、新しい事業に取り組むことで、宇陀市の名前をブランドとして、ほかの市町や全国に発信をしている途上であり、何もかもが途中であるというのが市長としての実感である。

少しでも成果が見える形にして、この総合計画の実施を通じて、よく言われる消滅可能性都市ではなく、持続可能性都市にしていきたい。日本全体としては、人口は減っていくが、市民サービスの水準を落とさずに、あるいは、今まで以上になるように、持続可能なまちづくりを頑張っていくということが今の宇陀市の状況である。本日は、PDCA サイクルで毎年事業を振り返り次の展開に繋げていこうということで、審議会において皆様方にご審議いただきたい。

今年度は、宇陀市の転入・転出に関する意向調査を実施した。本日はそのことについても、報告させていただくことになっている。限られた時間ではあるが、宇陀市を取り巻く状況がたいへん厳しい中で、計画で目指した成果を1つでも2つでも上げていくために、本日も皆様方から厳しくも温かいご意見を賜れば、たいへんありがたいと思っている。どうぞよろしくお願ひしたい。

出席 17名 欠席 3名

2. 副会長の交代

前副会長の松塚委員が交代されたことに伴い、井上委員を副会長に選任

井上副会長（挨拶）：

ご指名いただいた井上です。観光協会に長く関わっているわけでもなく、総合計画審議会

に関しても出席させていただいているだけのようなのだが、精一杯させていただくので、ご協力のほどよろしくお願ひしたい。

3. 説明

1. 人口動向について【資料 1】 事務局より説明
2. 宇陀市への転入・宇陀市からの転出に関する意向調査結果【資料 5】 事務局より説明
3. 2023 年度 主要事業の取組み及び今後の取組み【資料 2】 事務局より説明
4. 検証結果について【資料 3・4-1・4-2】 事務局より説明

伊藤会長：

説明内容について、ご意見・ご質問・ご感想があれば、頂戴したい。

西角委員：

数日前に何人かの議員のピラが入れてあったので、見せてもらった。民生委員の関係で 1 つ気になった点が、榛原に建設しようとしているこども園の場所が、台風や大雨のときに水害を受けそうな土地だと、それもただ単に沈むだけではなくて、土地ごと流されるといったことが、県のハザードマップの中に載っていたということである。いくらいい話を言っても、本当にできるのかと思っておられるのではないか。

人口が減っている要因は、1 にも 2 にも働く場所がないというのが大きいと思う。エストニアとの交流によって企業誘致を図っていこうという狙いもあるとも聞いている。その点、聞かせていただけたらと思う。

事務局（小林）：

1 つ目の質問で、榛原地域就学前施設等整備事業については、資料 5 ページの左上にあるが、榛原幼稚園、榛原東幼稚園、榛原北保育園の統合園舎として、榛原駅前のいちばん人が集まる所に「幼保連携型こども園」を持ってきて、まちの賑わいと利用者の利便性の向上ということで、この土地を選ばせていただいた。

おっしゃるとおり、この地域は浸水地域と承知している。その対策として、ハード面においても、ある一定の嵩上げをすとか、強固な基礎をつけるといった対策も実施している。今後、災害が起きたときには、早めの避難をしてもらうために、避難計画マニュアルもつくるといったソフト面にも対応していきたいと考えている。

この事業においては、予算から事業説明も行い、議会でもご承認いただいている事業で、既に解体工事等を進めて、新たな工事業者の選定業務にも取り掛かっている。保護者の皆様にしては待ち望んでいた「幼保連携型こども園」なので、令和 8 年 4 月の開園を目指して、肅々と事業を進めてまいりたい。また、地域の皆様にご理解をいただけるような説明等も同時に行ってまいりたいと考えている。

金剛市長：

少し補足させていただく。横の宇陀川というのは、もともと榛原駅の近くを流れていた川で、駅前の浸水対策で今から70年くらい前にバイパスの河川として人工的につくられた川である。この河川ができてから、伊勢湾台風とか、いくつか大きな台風もあったが、この場所については、一度も浸水したことがない。

また、この堤防についても、人工河川として整備されたときにしっかりと足元も固めて、堤防、護岸もつくられている。私どもとしては、さらにハード面でこの建物の4~5m下に強固な岩盤層があるため、そこに建物の杭をしっかりと設置しているのので、万が一、堤防に何かあったときにでも大丈夫なように設計をしている。

ここは浸水想定区域になっているが、ここは傷つく場所というのではなく、千年に一度の雨を想定した場合、浸水する恐れがあるため、適切に避難してくださいと市民の皆様にお示しをしているエリアである。技術的な補足説明をさせていただいた。

事務局（甲賀）：

2点目にご質問いただいたエストニア企業の誘致について、ご説明させていただく。まず、昨年度からエストニアと交流を開始しており、人材育成として子どもたちのアントレプレナーシップ（起業家精神教育）を宇陀市として今、取り組んでいる。起業家を育成したいというわけではなく、子どもたちの好奇心を育成したり、課題解決力を身に着けたりできるよう、取り組んでいる。

その延長としてエストニアでロボット工学に取り組んでおられる自動配送ロボを開発されている企業様とご縁ができた。今年の1月にクレボンという企業様とロボット工学ができる人材育成と、宇陀市への企業誘致を検討しようという覚書、協定を締結させていただいている。今年度に入って、クレボンといろいろと協議を進めている。

この自動配送ロボというのは、人は乗らずに荷物だけを運ぶ車になる。まだ日本国内では1社が走らせてただけで法整備もされていない状況での最先端の取組である。現在、国ともいろんな協議しながら進めているところであるが、国内の多くの企業が関心を示しておられるため、宇陀市としても是非にクレボンに来てほしいということで鋭意、調整・協議を進めている。

大門委員

この事業の進捗等を見させていただいているが、特に興味を持ったのが、86ページの資料5で、転入・転出に伴ってのアンケート調査である。いちばん下の「アンケート結果を踏まえて強化が必要と考えられる施策」を見ると、今後の宇陀市における骨太の方針のような重要施策という位置づけとして参考になるのではないかと感じる。

いろいろと事業評価を見たが、6-1-2「市民協働のまちづくりを推進します」だけがD評価である。まちづくり協議会ができており、いろいろな地域で賑わいを持たせよう、交流を

図ろうとしていることは、独自に工夫しながらやっていると思うが、市民協働のまちづくりが D 評価になっていることに対して、後半の計画年度に向けての考え方を聞かせていただきたい。

事務局（鈴木）：

特に 6-1-2 の市民協働のまちづくりが D 評価になっているのは、ほかの事業と違って、評価対象となる事業が 2 つしかなかったことが 1 つの要因かと思う。299「社会教育推進講座」、300「市長とまちかどトーク」の開催回数に対して評価しているので、どうしても D 評価になっている。ただ、市としては今後、この 2 つの事業に積極的に取り組んでいけたらと思っている。

栗谷委員：

老人会だが、先ほどの資料 1 で 2023 年度の死亡者数が 522 人と出ている。この中で孤独死と言われる、誰にも看取られずに亡くなられた方というのは、どれくらいいらっしゃるのか。

事務局（幸田）：

522 名の中に孤独死がどれだけいらっしゃるのか、手持ちの資料にはないので、この会議時間内にご回答できるよう、調査させていただく。

栗谷委員：

なぜ聞いたかと言うと、宇陀市以外では一人暮らしのお年寄りに緊急連絡装置を渡されている所がある。例えば桜井市では、現に活用されているかどうかはわからないが、どこかの警備会社と契約していて、ボタン 1 つを押したら緊急連絡ができるらしいと聞いている。宇陀市では、同様のものをお考えなのか。

事務局（小林）：

高齢福祉のことなので、健康福祉部から回答させていただく。以前はボタンを押すと、3 カ所に連絡が繋がるという NTT の緊急連絡装置を使っていた。今は ALSOK と契約をしていて、ボタンを押すと ALSOK から連絡があり、連絡が取れない場合はかけつけて、救急車を呼んでくれるサービスを 65 歳以上の一人暮らしの方に対して実施している。

栗谷委員：

うちの近所に若い嫁とおじいちゃんが二人で暮らしているところがある。若い嫁が日中に仕事に行かれている間に、おじいちゃんが倒れていて、夜に帰ってきたら、しんどそうにしていたので、救急車を呼んだことがあって、1 月からこれまでに 3 回入院された。民生委

員にご迷惑をおかけするかと思うが、一人暮らしの方だけでなく、若い方と同居しているが日中はお年寄りが1人だけになるご家庭についても調べていただけたらありがたい。

事務局（小林）：

民生委員の方には、一人暮らしの高齢者の調査にご協力いただいている。日中の独居のときに倒れたらどうなるのかというのもよくお話を聞く。ITも進んできているので、今後良いサービスも出てきたら、取り入れてまいりたいと考えている。

福山委員：

報告を聞かせていただいて、A～Eまで評価を示していただいたが、この評価は8ページにある評価指標や根拠指標によって、結果は随分と変わってくるのではないかと。いちばん気になるのが教育で、「自尊感情の向上」や「郷土に愛情を持った子どもたちの育成」は全国学力調査で測れるのかという点は、前回の会議でも質問させていただいた。そのときは、柔軟に変更していくように対応できたらという回答だったが、変わっていないように思う。

生徒会の中学3年生と話をし、自分たちは学校でどんなことがしたいか、PTAに対して予算を取るためにプレゼンテーションをしてもらった。そのときに、すごく調べたり、PowerPointで資料をつくったり、自分たちが実際にそれをやってみて、検証した結果がどうだったのか、という自分の思いをきちんと大人たちに対して発表ができる姿勢を見た。

そして先日、その中学3年生の学力が全国平均より上だったと校長先生から聞いた。学力調査で測れるのか、ちゃんと自分の意見が言えるからこそ、学力が上がったのか、どちらなのかというのはもちろんあるが、先ほどエストニア企業との交流の話もあったので、よい取組を宇陀市が積極的にされているのなら、ここの指標を変えてもいいのではないかと。そうすれば、評価が上がってくるかもしれないと感じた。

「生理の貧困」という事業があったと思うが、子どもたちにとっても女性にとっても、生理というのは次の世代を産むために大事なものかと思う。その言葉に貧困という言葉が出ているのが残念に思う。実は宇陀市の人権の担当課で生理用品を配っているということだが、市役所を利用する方は、昼間に時間のあるお年寄りが多いので、市役所で配るのではなく、学校で配布をすれば、もっと評価が上がるのではないかと。

せっかく来年度、市政20周年を迎えるので、お金をかけなくても、ちょっとした工夫で評価がCからB評価に変わったり、BがA評価に変わったりするのであれば、柔軟に変えていくことも必要ではないかと。

事務局（萩岡）：

教育委員会から回答する。「自尊感情の向上」や「郷土に愛情を持った子どもたちの育成」というのは、おっしゃるのように、全国学力学習調査という全国的にやっている調査があるが、その中の「生徒質問紙調査」にそういう項目があり、数的にそれを拾っている。

確かに、ここだけで子どもたちのいろんな面が変わってきたかどうか、判断しにくいというのは、前回もご指摘いただいた。評価をするルール上、ここは変えられないので、この項目が出ている。いいことをおっしゃっていただいて、私もうれしいが、中学生にはいろんな新しい動きがある。1つのきっかけは、エストニアに行ったことで、子どもたちに新しい動きや新しい力がついていると感じている。

それを何とか相応しい評価指標でもって評価できないか、今後、考えていかなければならないが、この評価の仕組み上、従前の評価方法で進めているところである。

あと生理の貧困についておっしゃったことは、学校では保健室に生理用品は備えてあり、申し出いただいたら、子どもたちにお渡しできるようになっている。

事務局（鈴木）：

8ページの「生涯輝くまち」について、項目を変えたらどうかというご質問で、去年の審議会では、柔軟に対応するというお話だったと思う。教育委員会から申し上げたように、この部分については、本来12年の基本構想となっており、325の事業は変えていく必要があると思っている。来年には後期計画の見直しも行うので、8ページについても柔軟に対応できたらと思っている。

小浦委員：

評価の仕方が現状を反映していない気がする。どうしても基本計画の年次の間の動向を把握するために、指標を変えたくないというのは理解できるので、12ページ以降、a～e評価をしている項目は変えられないのか。

事務局（鈴木）：

8ページの計画は12年間の目標なので変えられないが、個別事業については、各課の事業なので毎年変わるものになる。

小浦委員：

であれば、資料2で説明していただいた2023年度の主要事業があるが、こういったものがもう少しうまく反映されて評価に繋がっていくような項目を作ってはどうか。ずっと見ていたがどこを見たら書いてあるのか、よくわからない。せっかくこれだけたくさん事業をされているのに、全然評価に繋がっていない気がした。

特に私は都市計画審議会の会長なので、都市計画の絵姿を見てみたが、せっかく努力しているのが見えないのがもったいない気がする。少なくとも主要事業で挙げられているプロジェクトによって引き起こされてきている変化が反映されるようにしていくのが、今後、成果を評価していく上では大事ではないかと思った。

事務局（鈴木）：

貴重なご意見に感謝する。3ページ以降は、事務局から説明したように、リーディングプロジェクトと言っているものであり、金剛市長が取り組まれている成長戦略として、この4年間で実施することを浮き彫りにしたのが「まち・ひと・しごと」になる。主要事業以外については、6つの施策、325の個別事業として評価しているが、委員が言われるように、リーディングプロジェクトも評価すべきではないかということかと思うので、評価していきたいと思っている。

ただ、今回、2023年度にいろいろと取り組んだというかたちでお示しさせていただいている。今日は本年の計画書をお手元に持っておられないと思うが、その中に「まち・ひと・しごと」をリーディングプロジェクトとして、これに特化してこの4年間、取り組んでいこうというのが中期計画の目標である。

例えば、「しごと」であれば、観光戦略の推進、道路環境の整備等があり、特に働く場所が必要だということでこの4年間で頑張っ取組むというのを掲げている。それを踏まえて、例えば国道165号の整備をこの4年間でどう取り組んでいるか、といった評価になる。過去に配らせていただいた計画を見ながら評価すべきだと感じているので、その辺も検討させていただきたいと思う。

小浦委員：

例えば、資料4-1を見ると、3-3-3「農林畜産物の生産・流通を推進します」でも、B評価からC評価になっている。「しごと」のところでいろんな事業をしても、それが全然反映されていなくて、どうやって読み取ったらいいのか、不思議なものがたくさんあったので、工夫が必要かと思ったので、質問した。

伊藤会長：

少し評価の仕方を今後、工夫されたらどうか。

長岡委員：

9ページは全体的に見て、A~D評価は数値目標として、市役所の評価である。転入・転出している人については、個別アンケートを取っておられるので、これらは必要だという話である。総合計画というのは、その後、住んでおられる方が住んでいてよかったと思える宇陀市にすることが本来の目的だと思う。この表は市役所が評価しているが、市民の皆様方がどう思っておられるのか、満足されているのかどうか。

この計画をつくる最初のときに、全部の事業をすべてやるのか、できるのか、メリハリをつけないといけないのではないかという話をした。すべての事業について、市民の皆様方から見て、施策を比べるとどちらのほうが大事だという優先順位の軽重があってしかるべきだと思う。

全部つけろというわけではないが、目指すべき姿の1~6にこれだけ施策がある中で、市民の皆様方がどの施策が大事だと思うのか。市民が大事だと思う施策はA評価というのはいいが、あまり大事だと思わない施策はA評価で、最も大事な施策がB評価やC評価では、計画全体としては、あまり進んでいないと言ったほうがいいのではないか。

せっかく転入・転出の方のアンケートを取られているので、一度、市民の皆様方がこの計画について、どういう感じを持っておられるのかというデータを取らないと、これは市役所が見た評価なので、市民が本当にどう思っているのかというのがわからない。そこが必要ではないかと思う。

事務局（鈴木）：

いつもご意見を頂き、感謝する。もちろんおっしゃるとおりで、今回、転入・転出のアンケートについても、昨年度、確かご指摘いただいて加えさせていただいた。

冒頭に市長が申し上げたように、来年度、後期の計画を見直すところで、市民アンケートを取らせていただく。毎年アンケートを取るのなかなか厳しいが、次年度にアンケートを取る際に、市民が本当に何を必要としているのか、われわれ行政がしっかりとリンクしていきたいと思っている。

伊藤会長：

似たような話がほかの自治体でも出てくるが、住民の方が市のやっているいろんな事業について、どこまで情報を持っているのかと言うと、ほとんど持っていない。だから、評価をするのが非常に難しい。逆に言うと、市民の方に行政の情報をきちんと提供して、市民が受け取れる状況にしていく、これがDXの活用の仕方かと思う。

今回、市役所側の自己評価ということだが、リーディングプロジェクトも市長の思いで事業を進めていきたいということである。それに対して、パブリックコメント等で市民の賛成とか、もっとやってほしいという意見はあったのだろうか。

金剛市長：

私のマニフェストにご支持をいただいたという前提で、施策に載せていただいて、それにプラスαしたものがリーディングプロジェクトになっている。

伊藤会長：

市長が市民に対してアピールをして、その付託を受けているということなので結構かと思う。ただし、実際に評価するにあたっては、市民と行政の間には情報格差があるため、難しい。そこを何とか市民アンケートで工夫をすれば、市民の方も評価のしようがある。

すべての事業に対して、市民の方に理解してもらうのは難しいと思うが、重要な施策や事業については、アンケートで尋ねてみるのがあればいいと思う。

福山委員：

今の市民の評価と情報格差があるということに繋がる話だと思うが、私も総合計画審議会の委員をしていて、この資料を見ているので、宇陀市はこんなにいいことをしていると気づきがある。

1つの例を取ると、327「AIによるココロとカラダを元気にする事業」があるが、子どもたちを取り巻く環境の中で不登校がすごく大きな問題としてある。健康診断は体の診断をするが、心の診断は教育現場でできていないので、それとマッチングさせるとか、もしも心が不健康という結果を受けて、だんだんうつ状態になってくると、13「精神保健事業」のゲートキーパーという育成の講座が役に立ってくるといったように、それぞれが繋がっていると思う。

それがなかなかマッチングさせられていないので、市民として歯がゆく感じている。担当部局・担当課が違う事業の場合、今後、連携していけば、C評価がA評価になっていくような気がする。一緒に横串を指して連携させていくことができるのか。

事務局（鈴木）：

できる感じというのではなく、していくべきだと思うので、横串を刺していく必要がある。今、おっしゃっていただいた、ゲートキーパーはスクールカウンセラーなので、教育委員会からの回答になるが、例えば、65ページの230「スクールカウンセラー設置事業」では、市役所の評価ではAになっている。

ただ、全体を見ると、委員がおっしゃるように、もったいないところもあるかと思うので、教育委員会だけではなく、横串を刺していく必要があろうかと思っている。

上田委員：

質問というよりも感想になるが、私自身、南都銀行・榛原支店に来るまで宇陀地域というのはまったく認識がなかった。だが、この2年半余り仕事をさせていただいて、小規模な事業者の方も含め、いろんな経営者の方と話すことが多い中で、人口増加や地域の活性化の話で、市長が冒頭におっしゃったように、宇陀市は将来にわたって、持続可能な市になってほしいと思っているし、資源もたくさんあるし、いろいろと考えて問題意識の高い人がおられるので、持続可能な市になれる市だと思っている。

経営者の方がよく言われる、規制緩和、創業支援については、行政だけをお願いする話だけではなく、一緒にやっていきたいと思っている。われわれも地方銀行なので、地域の発展なくして、われわれ銀行の繁栄もない。目的は一緒だと思っている。

地域の事業者を支援して、人口を増やす施策の中でも、外国人の転入で増えているのが大きいという話だが、産業をしっかりとつくり、雇用を増やしていくのが本来のあるべき姿であり、地域活性化として、やっていかなければならない部分だと考えている。

ただ、創業支援の部分で銀行でも支援がなかなか続かない部分がある。PDCA サイクルを

しっかりと回していこうという話があったが、銀行も実際にできていないことが多い。いろんな事業者について、行政にも話をするが、なかなかうまくいかないケースが多いという話をよく聞かされる。PDCA サイクルをしっかりと回して行って、やり続けて、チェックした部分で誰かが軌道修正をして動いていくしかない。それしか解決策はないと思っている。

抽象的な話で、具体的ではないが、思いを共有できたらと思い、発言させていただいた。

伊藤会長：

特に感想、ご意見ということでよいか。何か事務局からコメントはあるか。

事務局（甲賀）：

今、規制緩和のお話が出たが、宇陀市の土地利用についてご意見を頂くことが多いので、少しご説明したい。宇陀市は合併する前に3町が都市計画区域に入っており、市街化調整区域がそのほとんどを占めているので、うまく土地利用が進められないというご意見をたくさん頂戴する。

小浦委員にも都市計画審議会でご意見を頂きながら、地区計画という調整区域の中でも建物が建てられるような仕組みの第1号をいま宇陀市で取り組んでいる。そのような取組を今後も進めていきたいと思っているし、実際に奈良県庁にも市長と一緒にいき、どうすれば宇陀市内で建物を建てられるようになるか、ご相談もさせていただいている。

小浦委員：

都市計画審議会でも土地利用に関して、いろんな工夫をしていければいいと思っている。感想だが、私自身、市街化調整区域等の土地利用に関して、空き地をどうしていくか、いろんな課題を各地域で抱えている。奈良県は運用が堅苦しいと言うか、融通が利かないことがあると感じている。

そこで、今、日本中が活性化と言うか、課題に対していろんな取組をやっている。実験的なこともやられていることもあったり、市の条例の中で動かしたりしていることもあり、いろんな方法がある。都市計画が奈良の場合、盆地全体が1つの都市計画区域になっていて、ほかとのしがらみがあって、宇陀市独自に動かしていこうとするとちょっと工夫が要ると感じている。

今、2000年の地方分権一括法以来、条例の効力がかなり強くなっているため、本気でやるなら、うまく条例をつくりながら動かしていくこともあるかもしれない。できるだけ地域の人たちがどういう稼ぎ方と言うか、まちの使い方をしていくかをよく聞きながら、市の方法論としても、制度上の奥にあるものを理解しつつ、うまく運用しつつ超える工夫をしていく必要があると感じている。

事務局（東）：

創業の件について、農林商工部からお伝えする。駅前の南都銀行前にサテライトオフィスがある。年に1度、創業セミナーというかたちで創業するにあたって、資金面や今後どのようにしていくか、4回にわたってさせていただいている。現在、奈良県の創業支援基金というのがあり、借入額が最高1,500万円までとなっていて、利子と保証料は県が負担することになっている。

宇陀市独自で借入額の10%を補助する援助をしている。例えば、1,500万円を借りると、宇陀市から150万円の補助をすることもしている。金融機関、大和信用金庫もちろんそうだが、担当の方ともわれわれ職員も、まめに創業事業者の方と向き合っていきたいと思っている。

仲浦委員：

お願いと言うか、希望なのだが、地域力を発揮するという意味で、まちづくり協議会がすごく活発に動いておられると思う。私たちの地域は人数が少ないので、本当にコンパクトなことしかできないが、やらなければならないという気持ちをみんなが持っている。

どうしているのか、広報の一角にでも参考事例を載せてもらって、お互いに勉強させてもらえるような機会があればいいと思う。せっかくなことをやりながら、それを披露する場がほとんどない。広報の一角にでもまちづくり協議会での話題を入れていただいて、元気が出るような仕組みがあってもいいのではないか。

事務局（鈴木）：

まちづくり協議会の取組については、「おうえんします うだぢから」ということで『広報うだ』に、ページとしていつも真ん中くらいにまちづくり協議会の22カ所の取組を載せている。あとはNPOの取組も載せているので、ご覧いただければと思う。

仲浦委員：

見ているが、こんなにたくさんのまちづくり協議会があるので、固定したものだけを載せるのではなく、いろんな地域の特色を生かした活動を載せてもらいたい。私たちの村でも小さいけれども、まちづくりとしてどうしているのか、記載していただけたら、いいのではないか。記事になったら、もっと頑張ろう、元気出そうと動く感じになるので、お願いしたい。

金剛市長：

ちょうど春、夏、秋ということで、いろんな地域のお祭りや行事に顔を出させていただいている。やはりいろんな所で人が減ってきて、行事が維持できないとか、高齢化してきて、参加できないという所もあるため、それなら行事をやめようかという話もよく聞く。

仲浦委員がおっしゃったように、少人数でも頑張っている所があることも感じて

いる。行政としても、地域の絆という言い方をするが、それがあつる所は、福祉や防犯・防災の面で、市として連携しやすいというのを感じている。

まだ宇陀市は地域のコミュニティがしっかりしていると思うが、時間の問題で崩れていくのではないかという危機感も持っている。市としては、確かにいろいろな方法はあるが、1つとしてみんなに知ってほしいという気持ちがモチベーションになるというのによくわかる。市にとつても、健康を含めていい話なので、『広報うだ』のことを紹介させていただいたが、表現の仕方を工夫して、みなさんが元氣の出るように頑張つてみたい。

仲浦委員：

私たちは食生活改善推進員というのをやっているのだから、広報の端のほうに料理を載せて、こんなのがあつたらどうするかという質問に答えてもらつたりする。一角の小さな記事の所でもいいので、参考になるようなことを教えてほしいと思う。

金剛市長：

ホームページ等、いろいろな媒体があるのだから、工夫させていただきたい。

事務局（小林）：

先ほどの孤独死のご質問について、調べさせていただいた。一人暮らしで地域から隔離されていて、死んだ後に誰にも知られずに数日間放置されていたことを孤独死の定義とするならば、去年もなかつた。しかし、一人暮らしの方で翌日、ヘルパーさんやケアマネージャーさんがお伺いしたときに亡くなつていた方は、数件あつた。

伊藤会長：

市長からのご発言があつたように、広報にもいろいろな媒体があると思う。ホームページも市民の各家庭に配るものもあり、宇陀市には「うだチャン 11」というケーブルテレビがある。それなら、リアルタイムに情報が流せるので、特集を組むことにすれば、皆様も関心を持たれるのではないか。そのために、いろいろと工夫していただければと思う。

仲浦委員：

うだチャンでも、料理をつくつたものを放送してくれている。地域ごとにいろいろな郷土料理があるので、食生活改善推進員でやっていることをテレビに出してもらつたりしているが、室生地区、田口地区、大野地区とか、地域ごとにいろいろな伝承料理がある。そういうのを広報の一角に載せてもらえたら、自分をつくつてみる人もいる。些細なことだが、それで元氣になることもある。

福山委員：

地域に根差して何十年と活動されているので、いろいろな思いがあると思う。委員と行政側の回答を見ても、情報格差、認識の差をすごく感じる。市長がおっしゃられたコミュニティ側ではまだしっかりとしているという認識も、実は私の世代では、すごく危機感を覚えている。崩壊寸前ではないかと思っている。

この審議会を開くにあたって、各団体の長の方がいらっしゃっていると思うが、各団体も次の世代に引き渡せる状態ではないのではないかと感じる。仲浦委員がおっしゃられたことの裏のテーマとしては、人材育成ができていないのではないかと感じている。それは行政にも言えると思う。部長級の方が、次に誰が部長になると考えたときに、人材として一緒にまち起こし、まちづくりをする仲間がなかなか掘り起こしと言うか、育成ができていないのではないかと。そのモヤモヤ感が仲浦委員の意見に反映されているのではないかと。人材育成もきちんと考えながら事業を進めていくのがすごく大事ではないかと思う。

伊藤会長：

まったくの本質論である。ほかになれば、私からまずは感想を述べたい。9ページの全体の検証結果として、色がついているのを見ていると、赤色がないので、「活力あるまち」は元気がないように見える。これが宇陀市の状況を物語っているのではないかと。特に農林業で、地域の経済を循環させていかないと力が出ない。そこが1つの大きな課題である。

それと、各個別の事業について、各担当課でいろいろとご苦労されていると思うが、36ページの111「空き家再生等推進事業」で、2023年度の目標は1件で実績は0件なので、e判定になっている。振り返りとして、「市民団体からの空き家を活用した活動要望はなかった」から、できなかった。今後どうするのかと言うと、対応方針として「今後は、市民団体の要望があれば対応する」というのでは、残念な気がする。

これは非常に消極的で、なぜ要望を聞き、掘り起こそうとしないのか。担当課の方はご苦労されていると思うが、そういう気持ちを持たれないと、なかなか難しい。空き家問題は宇陀市の中でも大きな問題である。では、どうしたら、応募してくれるようになるのかを考えないといけない。

ほかの事業をすべて見ているわけではないが、d・e評価となっているものが全体の中で本当に重要なかどうか、施策の構成として全体の評価では、A・B評価になっているが、各事業にはd・e評価が残っていて、それを取りこぼして、見過ごしてしまっているので、その点、気を付けないといけない。それがもし重要な施策事業であつたら、何とかしないとイケない。

担当部局の中で相談して、重要施策に注力しようという話し合いをして、それなりにできている、それほど重要でない施策は力を落として、すべてできるわけではないので、軽重をつけていくべきである。そういう全体的な施策・事業の力の配分の仕方みたいなことを、予算のこともあると思うので、考えていけば、徐々に成果が上がってくるのではないかと。

ほかにご意見がないようなので、以上としたい。今回の審議会の議題については、すべて

終了した。もし何かお気づきの点があれば、事務局までご連絡ください。熱心にご議論いただき、感謝したい。では、事務局にマイクをお返しする。

事務局（田中）：

伊藤会長、議事進行に感謝する。委員の皆様におかれても、貴重なご意見を賜り、感謝を申し上げたい。以上をもって、総合計画審議会を終了させていただく。ご審議を賜り、感謝し上げる。

以上